

## SyDE 10 月定例会議報告書

### ○ 開催概要

1. 日時: 2024 年 10 月 29 日
2. 場所: 理学研究科 SyDE 講義室
3. 担当: 斉藤大雅 (工学研究科 博士課程 1 年)、長村航聖 (理学研究科 修士課程 2 年)、菅井理一 (工学研究科 博士課程 1 年)

### ○ 内容

#### 1. 清水康弘先生のご講演

東日本大震災が発生した際に、環境省の現地災害対策本部として経験されたことを基に、震災時の政府の対応、災害廃棄物対策の実例から経験したこと、災害対応の教訓の 3 点を紹介いただいた。

- 1 点目では、震災時の自治体と国の対応体制について紹介いただいた。また、環境省での対応内容として、住居の確保や経済復興・再生に向けた災害廃棄物の処理について説明をいただいた。
- 2 点目では、市町村が担う災害廃棄物の処理に関する当時の実態と課題について紹介していただいた。廃棄物の処理作業を行うために法改正と整備を行ったことで復旧作業などが迅速に行われた一方で、廃棄物の不分別、有機廃棄物からの発火や悪臭問題、廃棄物の盗難などの問題も数多く存在した。また、自力での廃棄物処理が難しい市町村に対する支援体制の確立や、法改正を実施したと伺った。
- 3 点目の教訓として、想定外を想定すること、支援体制の準備、専門家・専門知識を活用すること、政治的リーダーシップを高めることをあげられた。

#### 2. グループ討議

講義をうけ、次の 3 点について議論を実施した。

1. あなた自身は、家族、友人、学校や地域コミュニティとともに、地震災害の被害を減らすために、普段からどんな準備を進めればよいと思いますか？優先順位の高い 3 つのことをあげてください。
2. 災害が生じる前からの準備 (**preparedness**) が重要ですが、あなたの住んでいる地域では、行政 (市町村、県、国) にどのような優先順序で取り組んでもらいたいと思いますか (堤防や排水路、傾斜地補強などのインフラ整備、避難所、防災拠点の整備、避難訓練、情報提供など) ?
3. 地震などの災害が生じた後には、被災地の復興に大きな努力が必要となりますが、あ

あなたが復興に貢献するとすれば、どのような方法が考えられますか？ SyDE の学生として何ができるか論じてください。

それぞれに対して、各グループから以下のような意見が出た。

1. グループ A からは、日用品（飲食料、薬など）、家の補強、家族間での避難場所の決定や意思疎通の3点が重要だと意見が出た。家の補強は災害廃棄物を出さないために各自ができることという位置づけで合った。グループ D&G からは、ハザードマップを確認すること、周辺の建物の強度マップを把握すること、非常持ち出し袋を準備することがあげられた。自助の取り組みと2次災害の低減を意識した意見であった。
2. グループ B は、行政からは自助・共助を助けるような施策を実施することを挙げ、近隣住民が非常時に助け合えるような関係性を構築するために、日常的に接触できるようなイベントを開催することや、マンションの防災当番など防災・減災に有用な取り組みの周知活動を行うような働きかけを行うことを挙げた。グループ E からは、シミュレーションによるリスクの事前分析と周知、学校などの公共施設の適切なメンテナンスを挙げた。
3. グループ C からは、工学と理学の知見からの提案があり、発災後の地盤調査から今後の被害リスクの評価を行うことや、被害状況の写真を集約しデータ分析を行うことによる広域被害の把握と分析、構造物の損傷状態をもとに今後の維持管理方法の指針を提示することに貢献できると報告があった。グループ F からは、行動経済学の知見を活かして、事象発生後のリスクを認識することや評価方法の適正化に貢献できると報告を受けた。また、SyDE 学生として災害科学に明るい人材として、避難所などでサイエンスコミュニケーターとして行動することができるのではないかという意見も出た。

